

# プロジェクトコーナー

## — 保健ボランティア育成によるモロの村の医療改善事業— — 今井記念海外協力基金事業—

このプロジェクトは、各コミュニティに住んでいる保健ボランティアへの研修が主な目的ですが、そのボランティアたちを取りまとめているのが、PIHS のローカルボランティアさん 3 名です。毎月 29 日はジェネラルサントス市内に集まって、その 1ヶ月間にあった出来事の報告と、次の1ヶ月の活動計画を PIHS スタッフの前で発表します。8 月 29 日のミーティングに同席しました。

タガテさん(43 才)はキアンバから来ました。栄養教室と給食のあと、母親たちとどのようなミーティングを行ったか、出産した人は何名か、薬草園では何を作っているか、など本当にその地域のことがわかってなければできない詳細な説明をしています。

カラミンさん(31 才)はティナガカンから。世帯数の報告、栄養教室、歯磨き指導教室の話。トゥヤンという新しく支援することになった村で、ファシリテータースキルトレーニング(物事を円滑かつ促進する技術研修)を行った報告がなされました。トゥヤンの女性たちはこういった研修を受けるのは初めてで、とても楽しんでいました。

今回はそのトゥヤンからボジコンさんも特別参加して、建設中のトレーニングセンターについてや、村内の肺炎患者について報告しました。

そのあとは今後のサニテーションキャンペーン(公衆衛生活動)や薬草研修の打ち合わせです。



PIHS スタッフの前で活動内容を発表。質問が次々飛ぶ。

午後 2 時に始まったミーティングは 6 時過ぎまで続きました。HANDS のプロジェクトはこういった人々の活動に支えられています。

## — ラムアフス校舎が完成! — — 松尾建設基金事業—



教室不足のラムアフス小学校で進められていた増築工事がようやく終わり、去る 7 月 26 日待ちに待った竣工式(写真)がありました。

ラムアフス校のあるラムブソン・コミュニティは、麓のクロッドで車を降りて徒歩 1 時間。それほど遠いわけではありませんが、馬もあえぎながら上る急坂で、雨季の間は砂利・セメント・木材を運ばせませんでした。また両側が急斜面の狭い学校敷地に増築する校舎は一部が斜面に張り出す形で基礎工事に時間がかかりました。

教室は増えても先生は 3 人だけです。マリオ先生をはじめとして、教師歴 10 年近いベテラン揃いです。交互に自習をさせながら 2 学年を同時に指導することになります。

2 年目に入った給食支援。新校舎の完成で、全校生徒がそれぞれの教室で落ち着いて食べることができるようになりました。校舎増築でいっそう教育効果が出ることを願っています。



## アトウモロック母親クラブ報告

### — FRN 助成マイクロクレジット事業その後—

男性たちが中心に進めた 7 年前の多目的組合事業が頓挫するなか、母親たちが 3 年前に始めた小規模事業資金貸付プロジェクトは、天日乾燥場を管理して使用する農民から一袋 8 ペソを徴収するなどしっかり機能しているようです。当会への定期報告義務をきちんと守っている顧問のエルナ先生の事業管理能力も評価できます。